



第1回スピーチ集会

沃野



竹富町立
船浦中学校
学校便り
第7号

発行責任者
校長
仲田欣五

スピーチ集会は、船浦中の特色ある取組の一つで、全生徒が自分の身近な出来事や興味関心を持ったことを全体で発表し、「書く」「発表する」「聞く」という活動を通して表現力や感性を豊にするねらいを基に実施しています。今年度第1回は英星さん、正和さん、洋希さんのスピーチでした。

(振り返り 東 洋希)

僕は、2回くらい原こうを書き直して赤ペンの直しの文字が減ったり、増えたりして大変だったので原こうは早めに欠いた方がいいと思いました。来年のスピーチは原こうをあまり見ないで発表できるようにしたいです。

「趣味について考える」

(2年 池間 正和)

皆さんは自由に好きなことができるのと、決まっている時間内に好きなことができるのは、どちらがいいですか。僕は今まで趣味について考えて見ました。



僕の趣味は、ゲームと釣りで、とても好きです。げーむの楽しさは、好きなソフトを選べるところです。そして友達と協力プレイをしてクリアした時は、達成感があります。釣りは、例えば釣りたい魚がいて目標に向けて仕掛けを変えたり、地域の釣り人に聞いてみたりと工夫が必要です。大きな魚がかかった時は、かけひきをしたり、釣り上げた後安次先生にあげたりします。逃げられてしまった時にはとても悔しいです。でも、また頑張ろうと思えます。

僕は、自分の趣味を見直してみると、どちらも達成感があってそこが楽しいという共通点に気づきました。そこで、僕は趣味とは、楽しみや達成感があると思いました。

一方で僕は、達成感があって楽しい趣味に没頭しすぎてしまって、本当のやることを後回しにしてしまうことがあります。やるべきことがある中で「時間があまりないけどもうゲームできるんじゃないか」や「えさづくりでもう1回くらいできるんじゃないか」と考えてしまします。一瞬の甘い考えの積み重ねでこれまでも家庭学習や家の手伝いを先延ばしにして、結局間に合わなかったり、母に怒られたりしてきました。そんな時、親に「しっかり時間決めて」と言われました。

僕のやっていたオンラインゲームは、昼は回線が混んでいてインターネット環境が悪く、ゲームの動作がカクカクしたり、急に目の前の敵が現れたりするので、やっている人の少ない朝早くにやることにしました。早起きをするために早く寝るようになり、前日に宿題を終わらせて万事順調でした。そんな時、光回線が西表島に入ってきて状況が変わりました。それまで通信環境の良い朝にやっていたものが、昼にも問題なくできるようになりました。朝の短い時間だけだったゲームが、いくらでもできるようになったのです。このすばらしい状況になり、ゲームをする時がだんだんと増えるようになっていきました。今一度冷静に考えると、光が入ってゲームがいつでもできる今よりも、以前の通信環境が整っていない時の方が、短いゲーム時間のために、宿題を終わらせ、早寝早起きして、中学校生活を高いレベルで維持できていました。その時は「ゲームをする時間が延ばせない」という制限がかかっていたことが、良かったんだと気づきました。むしろ、宿題も家の手伝いも終わらせていた僕の心はとても軽やかで良いコンディションに仕上がっていたと思います。

僕は、大好きな趣味について、こう思うのです。自由に好きなことができるよりも、決められた時間に向けて家庭学習や手伝いをすると自分のためにもなるし、気持ちも楽になります。だから僕は、限られた時間のためにやることを終わらすのが良いです。大好きな趣味でも、制限された方が楽しく趣味とつきあえると思います。

(振り返り 池間 正和)

自分の考えを文章にして自分の考えを確実にできたからよかった。何回も直しをして大変だった。今回のスピーチでは文を見てばかりだったので、もっと覚えられるようにしたい。

「僕にとって必要な存在」

(2年 東 洋希)

「信頼できる人いる？」と聞かれたら、皆さんはどう答えますか？僕の母は今でも連絡を取り合っている友達がいるそうです。そこで逆に母から「洋希は？」と聞かれたので友達について考えてみました。



まず、僕にはクラスメイトのことが思いました。全体的にいうと、個性豊かで趣味がはっきりしている人や人を楽しませてくれる人、引っ張ってくれるリーダー的存在、心配してくれる人、BTS好きでいつも笑っている人、いつも踊っている人、バスケバカでやさしい人、だじやればっかの変な人、いつもマイペースな人がいます。BTSが分からない人は涼さんに聞いてください。また、変なところで負けず嫌いで、団結すると止まらないところがいいと思います。でも、けじめをつけないといけないところがあります。それがまだできないのが僕たちです。

中学生になって変わったことは、一人一人との壁がなくなって、よく10人で遊ぶようになりしました。また、テスト勉強を協力し、楽しく勉強できるようになりました。

でも、最初から仲が良かったわけではありません。小学校の頃、いじめが原因で一時人間関係が崩れたことがありました。当時の担任の先生が強く叱ってくれたおかげで、より仲良くなった今のクラスがあります。その先生には今でも感謝しています。

また、去年の野球の試合の時です。ピッチャーをしていた僕は、焦りとプレッシャーでストライクが入らなくなってしまいました。その時、ふと聞こえてきたのがキャッチャーの呉己さんの声でした。「落ち着いてこう」この一言でふと冷静になり、基本であるアウトカウントやランナーの位置などの確認ができるようになり、周りが見えていなかった自分に気づきました。

呉己さんは他にも、僕らが小学校の頃の野球の試合で、サードを守っていた僕のイージミスで失点してしまった時、「切り替える」と声をかけてくれました。当時、呉己さんはセンターを守っていたのですが、遠くからでもはっきりと声が聞こえたとし、試合後も励ましてくれました。他の仲間ともいろんなエピソードがあります。

ある時、たまたま「親しき仲にも礼儀あり」という言葉に触れました。その時、朝起きた時の親とのあいさつであたりまえのことができていないことに気づきました。そして、去年の先輩方のことを思い出しました。先輩方は誰にでも礼儀ができていて、すごいと思いました。去年の先輩方を目標に日頃から礼儀を心がけたいです。

僕たちは島立ち後、困ったりすることがたくさんあると思います。今のうちに相談できる友達を探して、このクラスで何でも言える信頼関係をつくっていききたいです。

僕にとって「必要な存在」とは、つらい時や困った時に声をかけてくれるクラスメイトです。僕もみんなにとって必要な存在になれるように仲を深めていききたいです。再来年、西表島を出る僕たちは、みんなで行きたい高校へ行けるように協力してこれからも助け合っていきたいです。